

「礼文島国際フィールドスクール」第2回事前学習会

礼文島国際フィールドスクール 第2回事前学習会「北海道考古学の基礎を学ぶ！」

日時： 平成27年7月17日(金) 13:30~14:10

場所： 関高校北舎別館2F 対象：調査参加者(9名)

礼文島の環境や北海道の歴史、浜中2遺跡の調査について学びました。

- 講師は日本考古学協会会員である本校教諭2名です。礼文島での発掘調査に参加するにあたって、礼文島の自然環境や北海道の歴史について学びました。
- 礼文島は北海道の北端、稚内の西 60 km の日本海中にあります。私たちが暮らす岐阜県とは、気候も陸地の広がりも異なります。
- 本州では弥生時代以降、稲作を基本とした生活に変わっていきました。しかし、北海道では狩猟・採集の生活が継続していました。
- 調査に参加する浜中2遺跡では、土器や石器だけでなくたくさんの動物の骨が見つっています。特に、アシカなど海の動物やイヌの骨が多く見つっています。
- 台風接近による警報が発令されたため、途中で中止となりました。後日、北海道留辺蘂^{るべしべ}で見つかった黒曜石の石器にも触れました。



「北海道の北西に浮かんでいるこの島が礼文島です」パワーポイントを用いたのレクチャー

<参加した生徒の感想>

- 礼文島での活動は、日常生活では触れられないような事実が多くあるのでしょう。今日の話で、僅かですが基礎的なことを身に付けられたので良かったです。
- 台風によって全て聞けなかったことが残念でした。礼文島について知ることが出来、発掘調査に向けて期待が高まりました。礼文島は北海道の一番北にあり、サハリンの方が北海道に近いという話に驚きました。
- 冬場には辛い環境であることがわかり、昔の人たちも大変だったろうなと想像しながら話を聞いていました。
- 礼文島にはクマは生息しておらず海獣類が豊富なのですが、礼文島の遺跡からはクマの骨が出土しているという話を聞くと余計に疑問が深まり、詳しく調べたくなりました。環境が生活に大きく影響しているということが、北海道地方の歴史を聞くと具体的にわかりました。



「こんな石器が見つかるかも」北海道で出土した黒曜石の石器にも触れました。